

斑点米カメムシ類の侵入に注意

～ 水田内や農道・畦畔の除草を徹底してください ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

7月2半旬に行った抽出ほ場調査（50地点）における斑点米カメムシ類の畦畔でのすくい取り数は4.3頭（平成7.9頭）でやや少なかった。そのうち、アカスジカスミカメは1.4頭（平成2.2頭）で平成並、アカヒゲホソミドリカスミカメは2.9頭（平成4.3頭）でやや少なかった（表-1）。しかし、出穂したイネ科雑草がある畦畔では除草された畦畔と比較してすくい取り数が多い傾向であった（表-2）。

予察灯における誘殺数はアカスジカスミカメが6月3半旬以降平成並に推移し、アカヒゲホソミドリカスミカメは6月5半旬以降おおむね平成並に推移している（図-1、2）。

水田雑草はノビエが62%のほ場で発生し密度は0.6本/m²、同様にカヤツリグサ科は68%のほ場で発生し密度は2.5本/m²であったことから、今後アカスジカスミカメが水田内に侵入し増殖するおそれがある（表-3）。

向こう1か月の気温は高い、降水量は平成並か多いと予報されている。

以上のことから、斑点米カメムシ類の水田内での発生量が多くなると予想されるため以下の対策を行う。

2. 防除対策

- 1) 水田内のノビエやホタルイ等の除草を徹底する。除草剤の使用にあたっては使用時期に注意する。
- 2) 農道・畦畔、休耕田・法面等の草刈りはイネの出穂10日前（平成7月25日頃）までに地域一斉に行い、斑点米カメムシ類の密度抑制に努める。
- 3) 水田畦畔刈り込み代用剤を7月中旬までに散布すると40～50日の抑草効果があり、長期間にわたって斑点米カメムシ類の発生を抑制できる。

3. 資料

表-1 畦畔での斑点米カメムシ類すくい取り結果(7月2半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
2015	4.3	46	1.4	18	2.9	38
平成	7.9	56	2.2	17	4.3	44
概評	やや少	やや少	並	並	やや少	並

表-2 畦畔雑草の発生状況別のすくい取り結果(7月2半旬)

雑草の発生状況	雑草発生状況別地点率(%)	アカスジカスミカメ(頭)	アカヒゲホソミドリカスミカメ(頭)
除草が徹底されている	24	0	0.3
除草しているが、新葉が伸びている	30	0.1	0.9
出穂しているイネ科雑草がある	46	3.1	5.3

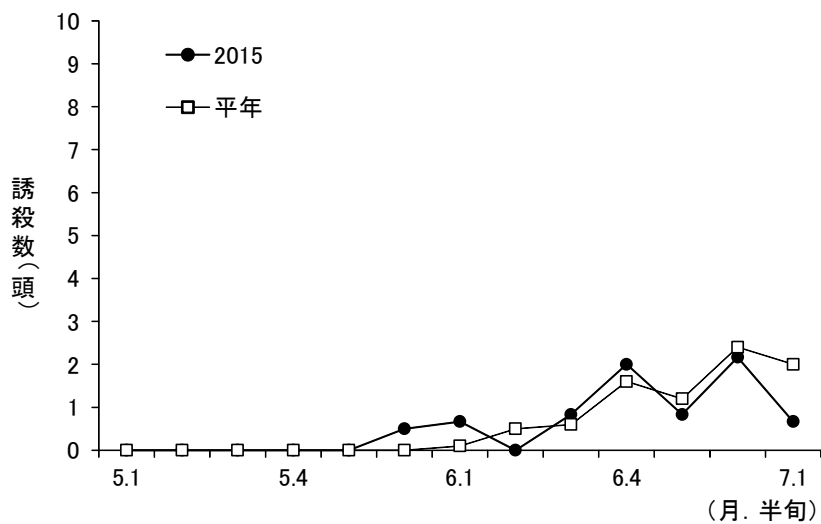


図-1 予察灯におけるアカスジカスミカメの誘殺消長(県内6予察灯の平均値)

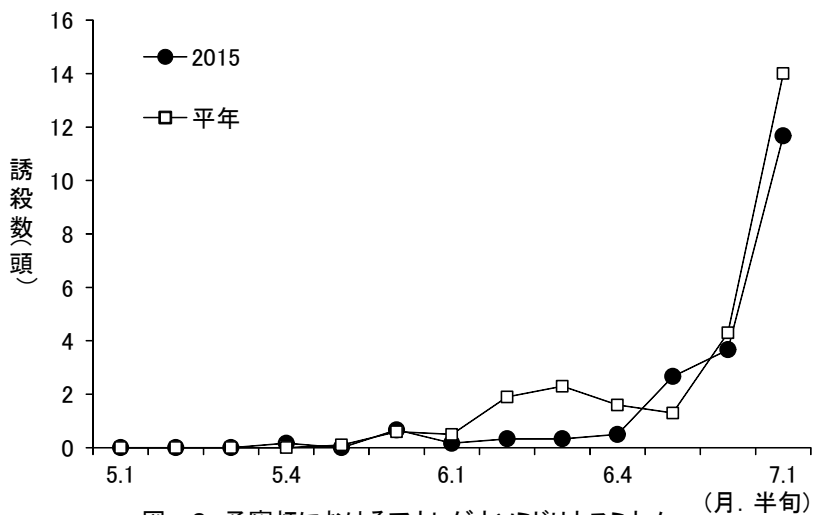


図-2 予察灯におけるアカヒゲホソドリカスミカメの誘殺消長(県内6予察灯の平均値)

表-3 水田雑草の発生状況

	発生地点率(%)	発生密度*(本/m ²) [最小-最大]
ノビエ	62	0.6 [0.01- 6.7]
カヤツリグサ科	68	2.5 [0.01-48.5]

*水田雑草発生地点における平均発生密度

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>